

審議会等会議録

審議会等の名称	第3回文化振興ビジョン検討懇話会
開催日時	令和元年8月9日（金曜日）15：00～16：45
開催場所	山口市役所3階 第2委員会室
出席者	前田哲男（会長）、松原清（副会長）、中野良寿（専門部会長）、津田隆、広田早苗、鈴木啓二郎、斎藤郁夫、中原豊、山本有希、大庭達敏、磯村勇、松前了嗣、米本太郎（敬称省略、順不同）（13名）
欠席者	大和保男、足立明男、河野康志、時乗順一郎（敬称省略、順不同）（4名）
事務局	交流創造部：有田部長、古賀参事 文化交流課：上野課長、神足主幹、竹内主幹、二段副主幹、半田主事（7人） 山口市文化振興財団事務局長：堀由紀江（1人）
議題	・山口市文化振興ビジョン素案について
内容	<p>次第に基づき以下のとおり進められた。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 部長挨拶</li> <li>2. 事務局挨拶</li> <li>3. 会長挨拶</li> </ol> <p>&lt;審議&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>4. 山口市文化振興ビジョン素案について</li> </ol> <p>配布資料「山口市文化振興ビジョン素案について」事務局から説明の後、会長の進行により審議に入った。</p> <p>&lt;会長&gt;</p> <p>事務局から説明があったが、何か御質問等があればお願いします。</p> <p>&lt;委員&gt;</p> <p>アンケートの分析をすることは大切だと思う。今後事業を実施するにあたって、どの地域でどういった事業を行うのが有効なのかということを考えるひとつの手がかりだと考える。</p> <p>&lt;委員&gt;</p> <p>前回のビジョンと今回のビジョンで大きく事情が異なるところは、前回のビジョン策定時には必要なかった、前回のビジョンの総括をしつつ、今回のビジョンを策定するということであると考え。配られた資料を見てみると、総括の部分が量的にとっても重たく感じる。こういったバランスはとても気を使うべきところである。9つのプロジェクトについても細かく総括されているし、アートふる山口が終了したことなど、</p>

細かいところまで総括の中に組み入れていくかどうかは、冊子になったときの体裁を考えると非常に悩ましい。8年先までのビジョンを打ち出すにあたって、これまで10年間の総括の方が量的に重たいということは厳しい。どこからどこまでを載せるべきなのかという判断はこれから試行錯誤していくのだろうが、大変悩ましいところである。

2つ目に、P3策定の趣旨は、全部で4段落構成となっており、2段落目に現行ビジョンが記載されているが、この内容は第4段落目に書いてある「文化の薫るまち 創造ビジョン」のことだろうか。そうなった時に、「文化の薫るまち 創造ビジョン」という具体的名称が後に出てきて、現行ビジョンが2段落目に出てくるが、文章の作り方は気を使うべきだと考える。1段落目において、文化芸術とは何なのかという認識を示しておき、2段落目では、10年間の社会的な変化を表現し、3段落目では、求められていることは何かを説明し、4段落目では、趣旨としてビジョンを説明していることは良いと思うが、前回のビジョンをどう位置付けるのか、文章の作り方については気を使うべきところ。

最後に、国の動向に出てくる「レガシー」という言葉は、国の文言なので勝手に変えることは出来ないと思うが、「レガシー」や「文化財マネジメント」という横文字について、これから冊子を手にする人が、すぐに頭に入ってくるかということ、少なくとも自分のような50代の人間には入ってこないと思った。

<会長>

御意見があったが、事務局から説明いただけるか。

<事務局>

用語については、市民の皆様にとって分かりやすい表現になるよう心がけたい。また分かりやすく表現することが難しいようであれば、用語の後ろに解説を入れるよう対応したい。これまでの文化施策についての基本的な取組み、振り返りの考え方については、委員の皆様のご意見を頂戴したいと思う。

<会長>

P16～P20までで、ご意見を頂戴したいとのことだったが、いかがか。ここの部分は部会でも話をしたのか。

<部会長>

部会の方であまり挙げなかった施設が2つあって、山口ふるさと伝承総合センターと山口市菜香亭だが、この二つは市の施設であり、文化的に中心となったということは事実なので、そこを入れるともっとうまくまとまるのかなと思う。例えば、郷土文化、伝統文化のところに盛り込んでいただけたら。詳しく言えば、P17上の辺りに盛り込んでいただきたいと考える。

<事務局>

山口ふるさと伝承総合センターについては、施設内で大内塗の体験等を行っているので、追記させていただこうと思う。山口市菜香亭については、P 1 9 「⑧文化資源を生かした魅力ある地域づくりの推進」の真ん中「また、」以降に記載している。

<委員>

P 1 7 で、市民がいろいろな施設の改修に取り組んだとして雪舟庭を守る会の発足が出ているが、この取組を挙げるのであれば、亀山公園の改修についても市民団体が一生懸命行っているのに、入れるべきではないか。また、「③市民文化活動の充実と支援」で、「山口市民会館や文化振興財団、C・S赤れんが企画運営事業において質の高い芸術鑑賞の機会を提供するとともに」とある。自分の周りでは、市民会館については、質の高い芸術鑑賞の機会が減ってきたのではないかと感じている人が多い。質の高い芸術鑑賞の機会は、周南市文化会館やシンフォニア岩国へと流れて、山口は避けられているのではないかと思っている。理由はいろいろあると思うが、その1つには、山口市民会館の音響が悪いことがあるのではないかと。高いお金を出してまで行きたくないという市民もいるかもしれないが。文化度が高いことを目指すのであれば、対策を講じていかなければならない。

<会長>

市内では、様々な文化芸術活動が行われており、それらを全て平等に取り扱うことが可能かどうかは不安である。せっかく良い活動しているのに、今までの取組の総括で、取り上げられないとなると困るなど思った。

<委員>

自分は逆に具体的なものが出ることに違和感を覚えた。一般的に市のことを書いてきたのに、いきなり具体的なものが出てきたなど。市が支援してきたならば話は別だが、そうではない場合、どれをここに書いて、どれを書かないのかという判断は難しいのではないかと。「③市民文化活動の充実と支援」で「さらに市民や文化団体、NPOによる多様な文化活動や生涯学習活動、情報発信活動が活発に行われました」という文は、いきなり入ってきた感がある。実際に活動している身としては、実際に教育委員会の後援をいただいているのだが、「活発に行われた」という根拠などに違和感を覚えた。

<委員>

先ほどの委員の言うとおりの。名前を出さないなら出さないほうが良いと思う。

<会長>

デリケートな話は沢山出てくると思う。現行の「文化の薫るまち 創造ビジョン」の後の動きを反省することは、大変重要であると思うが、市民の自主的な活動について、あまり位置づけをしてほしくないという御意見もあるかと思う。

<委員>

実際に支援していただいております、教育委員会の後援や財団からの助成、メセナなどからの芸術活動への支援があるのは確かであるので、その辺を盛り込んでいただくことは良いとは思いますが。

<委員>

市民活動等は、市のほうから助成が出ていて、年間の採択件数などはリストを見たら内容は分かるが、書き方に含みを持たせたらよいと思う。採択されたデータを見て、上手く書けたら良いと思う。

<委員>

中原中也記念館、中原中也の会の副会長として申し上げますと、P18「⑤新しい芸術文化の創造」の中に「中也の詩を狂言のセリフ回しで読むという子ども向けのワークショップも行われた」とある。米本委員に御協力いただいて、記念館で行ったものなのだが、この記載をみると文化協会が行ったようになっており、事実と違う。また、「⑦国内外の交流の推進とネットワークづくり」で「中原中也の詩を愛する人々が、中原中也と中也の詩の世界への理解を深め、立場を超えて広く交流した」とあり、中原中也の会のことを書かれているのだと思うが、中原中也の会は「創造都市ネットワーク日本」に関わったことはない。

<委員>

P18「⑥世界に向けた魅力ある情報の発信」で言えば、写真を一枚見ただけで、振り返りが出来ると感じた。活発に、質の高いといった評価の文言を文章で書くと重たくなるが、写真一枚を入れての振り返りをするなどの軽さが大切。読んでほしいのは10年間の振り返りではなく、今後のビジョンの取組みではないか。

<委員>

P19「⑨新たな芸術文化の創造による新産業の創出」については、非常に目指すレベルが高いジャンルの話であると思っているが、後期高齢者の自分にとっては分かりづらい。もう少し積極的に分かりやすい表現にしていただけたら。山口市ではこんなことをやっているのだということを出してほしい。

<委員>

私は前回の会議で、『成果としてはどのようなことがあるのか』ということを書いていただくようお願いしたが、具体例を文章化することは難

しい。例示や写真でビジョンの成果を説明するとともに、課題はまだあることを書いたらどうかと考える。成果はあくまでも例示と捉えているため、事務局でもそのように捉えていただけたらと思う。

<事務局>

P 3で段落の流れが分かりづらいというところは、構成について検討していきたいと思う。P 10～P 15の市民アンケートについては分析が弱いかと思うので、分析していきたいと思う。P 16～P 20については、前回ビジョンの振り返りになるので、どこまで記載するかについて、事務局内で調整させていただきたい。P 17「③市民文化活動の充実と支援」については、途中までは市が行ったことを書いているが、「さらに」以降、市民や文化団体の皆様の活動を、多く入れたいとの思いで記載させていただいているので、どこまで書き込むかについても調整させていただきたい。また、絵や写真でイメージを伝えることは重要であると考えており、次回お示しする際には、写真等を入れて分かりやすくお示ししたい。P 19「⑨新たな芸術文化の創造による新産業創出」についてはわかりやすい表現にしていきたいと考える。

<委員>

自分が移住者であるため、その観点から一言申し上げたい。このビジョンは基本的には山口市民向けか、それとも全国向けかを伺いたい。またP 18には「⑥世界に向けた魅力ある情報の発信」とあるので、一部でもサマリーというか、簡単にまとめたものを英訳して載せられないかと思う。先ほど意見が出た、写真や絵、冊子のデザインはかなり重要で、NPO団体の報告書についても写真を用いることによって、伝わることが多い。今回配られた資料を見て、文章がものすごく多いなと感じた。固有名詞を見て、山口市民は納得するかもしれないが、県外・市外の人には分からない人もいるため、文化的な魅力のある山口を表に出して行くにはこういったところも考えていかないといけない。冊子として魅力あるものになると良いと考えている。

<事務局>

文化振興ビジョンについては、P 3「2計画の位置付けと計画期間」の第二次山口市総合計画に示す将来都市像の実現に向けて、文化政策と他関連政策を包括的に推進していくために、指針として策定させていただくものであって、これをもとに今後8年間の文化的な目指すまちの姿に向けて取り組んでいくために策定するものである。冊子として市民の皆様に配布するものではないが、分かりやすく見やすい表記を心がけたい。

<会長>

続いて、第2章に入っていきたいと考えているが、4つの基本的方向

性について御意見があればお願いしたいとのことだが、いかがか。資料のP 2 3以降が、少し混乱しているような構成になっているが、事務局から説明いただけないか。

<事務局>

P 2 1～第2章、P 2 7～第3章を資料に沿って説明。

<会長>

事務局から説明があったが、何か御質問等があれば願います。

<委員>

P 2 3の基本的方向性1～4についての異論はないが、基本的方向性2の人材の育成のところに定着といった話があったように記憶している。つまり創造的な人が育まれると同時に定着できるようにという視点を入れ込んでほしい。人材を育てても、外に流出していくばかりだと、山口市の文化的な力になっていかないので、そこを考慮していただきたい。

<事務局>

文化芸術による、移住、定住に向けての取組みは必要であると考えている。基本的方向性については、総合計画の4つに紐付けており、新たな視点については、プロジェクト事業で記載していきたいと考えていることから、ここでは触れていない。

<委員>

全体の説明を聞いていると、旧山口市内中心の話になっているのではないかと感じてしまう。山口市は合併して広範囲となっているので、旧市内に偏るのではなくて、もう少し視野を広げて、阿知須や秋穂、阿東、徳地の方にも目を向けた取組みをしていただけたらと思う。

<委員>

P 2 3の図で、現行の創造ビジョンの位置というか、第二次総合計画施策2－3はいつ作られて、それを踏まえて、現行のビジョンが作られ、10年経過したため何が出来ているのか等の評価等を行い、現在第二次文化振興ビジョンを策定するために集まっているのだと思うが、これらの関係性を盛り込んだほうが良いのではないかと思う。

<事務局>

山口市総合計画は、平成30年3月に発行されており、P 6のところに記載させていただいたとおり、その中から文化に関するプロジェクトを抜粋し載せている。これを踏まえて、4つの基本事業が定められており、それに沿った文化の目指す基本的な方向性をリンクさせている状況。

<委員>

4つの基本的方向性の順番についてだが、方向性1は現在の文化をど

うやって色鮮やかに織り込んでいくかについて、2は人材育成について、3は引き継ぐ・守るについて、4は多分野であって、文化芸術と経済や人の動きなどを作るということについてである。そこで、どういう人材なのかとなったときに、2番目に人材を持っていくと、文化芸術に関わる人材の育成、また4番目に持っていくと、文化芸術とその他の分野とをつなぐ人材等も含めることができる。文化振興を考えた時に、どういう人材がこれから山口市に必要なのかということを考えないといけない。今の案では文化芸術のみに関わる人材育成となっているが、今大学等では、地域課題を解決していこうという学習をするときに、コーディネートしていく人材というものにどうも視点は向いているようで、学生はそういうところを学習していると思うので、どういう人材を文化振興ビジョンは必要としているのかと考えたときに、並べる順番は大変重要になってくると思う。

#### <委員>

山口市を拠点に活動している立場として、未来を担う子ども達に、山口市の文化や伝統を伝えていくことがいかに大事なのかということを考えながら活動している。人材育成・継承については現実的には厳しい状況である。毎年、いろいろな小・中学校、山口県立大学とも協力して活動しているが、文化芸術に関しては厳しい時代であると実感している。補助金や助成金に頼っての活動は限界が来ている中で、自主的に活動できる環境を作らなければいけないが、人材は枯渇している状態である。生業として文化芸術をやっていくのか、それとも地域で伝わっている伝統芸能等を地域で残していくのかによって考え方が変わってくる。鷲流については、地域というよりも山口で残った狂言の流派であるので、地域との縁は基本的には希薄である。神社のお祭りなどで行うものであれば、世襲で盛り上げることができるが、自分達のような活動は、やりたい人がいなければ伝わらないため、目の前に「滅び」というものがある。山口県レベルで、神楽や人間浄瑠璃の団体が集まる連絡協議会を3年前に立ち上げており、ルネッサ長門が事務局をされているが、どの団体においても、自分達で終わりだという諦めの部分がある。子ども達がいるから、次の世代につなげていこうとしているが、学校にいる間は、子どもたちは関わってくれるものの、その後の受け皿がない。受け皿を作っていくのは団体自身なのか、それとも行政に協力をいただくのか。人材育成に関しては発信していくことも大事だが、現状を把握する作業も必要。人材育成に関しては、現状を知っていただき、山口市として、あるいは団体として考える機会になったら良いと思っている。自分としても、10年前から前回のビジョンをあまり知らずに活動してきた。市民レベルで言えば、ビジョンうんぬんより、これからの山口市の

	<p>未来につながっていくと思って活動しているので、そこを吸い上げていただけたらと思う。</p> <p>&lt;委員&gt;</p> <p>先ほどの委員と同じように、ダンスを続けてきた立場から言わせていただくと、続けるということはどれだけ難しいかということは現場にいる人間が1番分かっている。また、繋いでいくことは大切であると思っている。ただし、自分達ができること、発信することは限られているので、市から発信してもらおうといったお手伝いをしていただけたらと思う。8年間の計画期間の中で、当てはまるのかは分からないが、人材育成という言葉の中に、長期的な視点で、『山口市としてはこの先も文化を大切にしていく』という姿勢を見せてもらえたら、現場の人間としては心強く思う。</p> <p>&lt;会長&gt;</p> <p>その他事務局からお願いする。</p> <p>5 その他</p> <p>&lt;事務局&gt;</p> <p>次回第4回懇話会は、10月上旬に開催を予定しており、最終案をお示しできればと考えている。</p> <p>以上で会議を終了した。</p>
<p>会議資料</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3回文化振興ビジョン検討懇話会次第</li> <li>・資料： 山口市文化振興ビジョン素案</li> <li>・別紙： 市民意識とこれまでの文化政策 地域別集計結果</li> </ul>
<p>問い合わせ先</p>	<p>交流創造部 文化交流課</p> <p>TEL 083-934-2717</p>